

Ⅲ鳥取藩と竹島（鬱陵島）・松島（竹島／独島）渡海

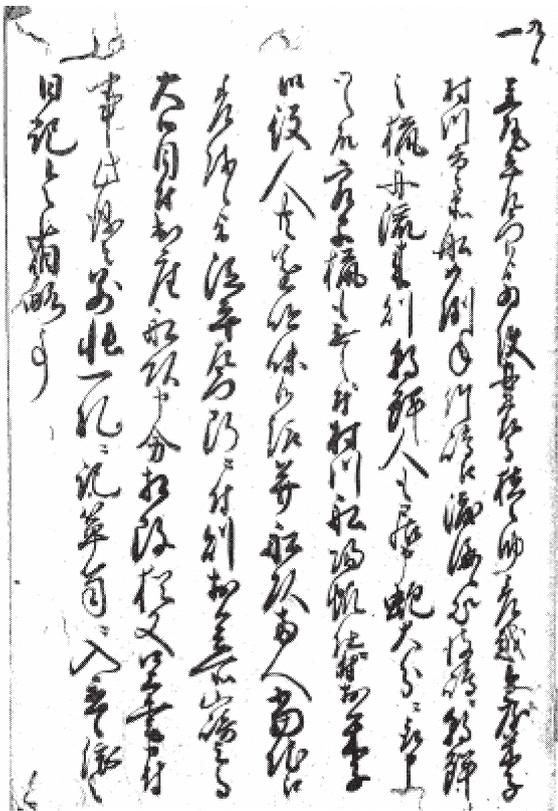
CD-ROM に収録した資料より、元禄5～9年の鳥取藩と竹島（鬱陵島）・松島（竹島/独島）渡海の関係について、その概略を見ていく。また、竹島一件と鳥取藩の関係を考える上で注目される資料について原文と翻刻文を紹介する。なお、例示した資料は、いずれも付属のCD-ROM に収録されている。

※以下の叙述のなかの「竹島」は現在の鬱陵島、「松島」は竹島／独島のことを指す。

(1)元禄5（1692）年 村川市兵衛船、竹島にて朝鮮人と遭遇

2月11日、米子（鳥取県米子市）を出船した村川船は、3月26日、竹島の「いか島」へ到着したところ、アワビがとられた様子を発見する。翌日、浜田浦にて朝鮮船2艘、朝鮮人30人と遭遇し、大坂浦へ廻り、朝鮮人通詞と会話し、竹島渡海の原因をたずねる。結局、村川船はアワビをとることができず、やむなく4月5日、米子へ帰帆（以上「竹嶋之書附」、「増補珍事録」）。その後、藩に朝鮮人と遭遇した旨を報告する。9日、藩は村川船の船頭2人を鳥取へ呼び出し、町会所にて取り調べを行い、口上書を作成する。さらに、朝鮮人連行の旨は江戸藩邸に報告され、28日、月番老中阿部豊後守の指示を仰ぐ。阿部は、朝鮮人が竹島から出ればお構いなしとの意を伝え、5月10日、鳥取にその旨が伝えられる（以上「控帳」、「御用人日記写」）。

史料1 「控帳」4月9日条。村川家が竹島にて朝鮮人と遭遇した旨を鳥取藩へ報告したこと、村川船の船頭の取り調べについて記されている



(四月九日)
一、荒尾平左衛門より為使安養寺猪之助差越、今度米子村川市兵衛船如例年竹嶋え渡海候処、彼嶋ニ朝鮮之獵舟流来、則朝鮮人も居申、鮑大分ニ取申候故、最早獵も無之ニ付、村川船帰帆仕ニ付、於米子御役人共遂吟味候趣、并船頭兩人当地え差越候旨、従平左衛門断ニ付、則於会所山崎主馬・大御目付出座、船頭申分相改、猶又口上書申付事。此儀は別帳一札ニ記、筆筒ニ入置候。依之日記令省略事。